

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
<p>1 実践1 【7年道徳：いじめをなくすために大切なことは何か】</p>	<p>いじめ問題に関する授業を行った。道徳教材資料「傍観者でいいのか」をもとに、生徒の率直な意見や感想を話し合った。いじめられている姿を見て、注意することができなかつたなど「見て見ぬふりの行動」をしてしまうのはなぜかという問いについて、ノートに記述し自主的な話し合いをすすめた。</p> <hr/> <p>成果 教材資料の内容を自分たちの身近な課題として最初に感想を話し合ったことで、積極的に発言しやすい雰囲気となった。他の生徒の意見を聞き、いじめがいつ誰にでも起こりうることや、いじめが起きてしまった場合、自分が傍観者になることなく、自分が思った正しい行動をとれるようにすることの大切さを再認識できた。また、周囲の目を気にして正しい行動ができない人間の弱さについて考えることもできた。</p> <hr/> <p>課題 いじめ問題については、道徳の時間だけでなく学級活動や日頃の学校生活の中で児童生徒と共に考えることが必要だろうと感じた。そのため、いじめと人権教育の関連を明確にして学校生活のあらゆる場面を学びの場としてとらえることが大切だろうと思う。</p>
<p>2 実践2 【地域防災訓練】</p>	<p>本校の児童生徒とその保護者、地域住民、中里交流センター職員及び消防署職員による地域合同の防災訓練を実施した。消防署職員の方々からは、災害時に取るべき行動や普段からの防災に対する備えの大切さ、避難時における助け合う行動の必要性を説く講話があった。簡易テントや段ボールベットの組み立ての研修では、互いに声をかけ合い協力しながら行った。</p> <hr/> <p>成果 災害時には、多くの人が協力し、互いを思いやり助け合って避難生活を送ることの大切さを再確認することができた。また、地域住民との交流を図る機会を作ったことで、学校だけでなく地域や住民との関わり合いの中で生活をしていくことの大切さを知ることもできた。</p> <hr/> <p>課題 地域での防災訓練では多くの大人の方々の参加があり、人と人とのつながりの大切さを再認識した反面、日常の学校生活では教師や児童生徒など限られた関係性の中で過ごしているため、地域の方々との共同作業では、声をかけてもらうまで、うまく活動に入れなかつた児童の姿が見られたため、前期課程と後期課程と地域の方々などの縦割りの関係性を意識したものにして行くことが大切だろうと感じた。</p>